

「日本の山は若い人を待っている」。林業労働力を確保するため6年に始まった「林業就業支援講習」の参加者が急増している。雇用情勢の急速な悪化が背景にあるが、「自然豊かな田舎で暮らしたい」「日本の山を守りたい」という意欲あふれる受講生は、人手不足に悩む日本林業の強力な助っ人になるかもしれない。【山口透、写真も】

◆田舎暮らしの魅力

同講習は厚生労働省の委託事業。全国森林組合連合会雇用対策課は「今年は若い人の参加が多く、受講者は約2割増。リストラされた20〜30歳代の人々が林業に目を向けたのではないかと話す。4月の完全失業率5・0％は5年5カ月ぶりの5割台。厚労省農山村雇用対策室も「自然豊かな田舎で暮らしたいと考える人が増えており、林業労働力確保の好機」と期待感を隠さない。

5月に講習を行った大阪府では、15人の定員に過去最高の40人が応募。高齢の人には遠慮してもらって絞り込み、受講生は22〜42歳、平均33・4歳だった。

◆基礎から実践まで

「山仕事は耳が大事。ゴロゴロとかバリバリという音に注意して危険を避けたいといかん」「教科書には耳栓をするようにと、書いてありましたが」「それは大間違い。音のチェンソーは音が大きく、難聴になったが、今は大丈夫」

# 若い人林業に集う

Work

の切り方の違い、間伐した木材の搬出方法などを手取り足取り教え、受講者はさやかな汗を流した。

◆厳しさやりがい

大阪市の林大佑さん(32)はサードビス残業による過労のため入院し、自然に触れる仕事をした」と応募。林業の厳しさを感じたが、その分やりがいもある。若い人に林業に就いてほしいという話を聞き、使命感を感じた

「います」と若者を歓迎する。林業労働の賃金は日給8,000円程度。社会保険料などを負担すると月収は20万円に満たないという。それでも田舎暮らしを目的に林業就職を考える人が少なくない。

東京で広告関係のフリーカメラマンをしていた大阪府豊中市の細川直樹さん(39)は「都会生活に疲れた。自然の中で体を動かす仕事をしたい。子育てにも田舎がいい」と、田舎暮らしを

## 雇用情勢悪化も後押し



切り倒したヒノキの皮をはがす作業—大阪府河内長野市で

1週間の座学の後、大阪府河内長野市の山で行われた実地講習では、ベテラン指導員が現場の知恵を伝授した。他の木を傷つけないように狙った方向に切り倒すノウハウ、ヒノキとスギと、転職する気持ちを強めた。希望する。大阪府内では林業の職場は少ないため、同連合会は近畿だけでなく、中国地方や九州などの職場も紹介して、林業就職をサ